

国語研究 第八十八号目次

イニシへとムカシの語義再考	浅川哲也	1
— 『万葉集』のイニシヘユをめぐって—		
新古今前後における助動詞「らむ」	色川大輔	25
「(動詞) まで」の〈終点解釈〉〈始点解釈〉〈途中解釈〉		
— いわゆる「含む」「含まない」解釈について—	安食次暁	235
荷田春満のアクセント資料における第二種表記法	中村明裕	211
高知県幡多地方の終助詞	川中子善子	189
天草版平家物語の否定過去表現	吉田永弘	173
忘れられた言語理論— 亀井孝・本居春庭・鈴木胤—	小柳智一	157
中古和文における「になる」と「となる」と		
— 『源氏物語』を中心に—	紙尾康彦	135
現代日本語の助詞「さ」の使用傾向		
— 終助詞と間投助詞の使用域について—	北澤尚	113

現代語「こそ」を捉え直す

— 〈強調〉という名づけを超えて— …………… 菊地 康人 ……左87

岩手県田野畑村方言の地名のアクセント

— 末核型に焦点を当てて— …………… 上野 善道 ……左49

「天草版ラテン文典」における日本語の記述と「日本大文典」への影響

— ラテン語の不定法を中心に— …………… シュテファン・カイザー ……左26

【平成十八年度後期大会発表資料】

日葡辞書の「チドリ」について…………… 岡崎 正 繼 ……左7

岡崎正繼博士略年譜並びに主要著述目録…………… 吉田 永弘 編 ……左2

追悼…………… 國學院 大學 国語研究会 会長 諸 星 美智直 ……左1